

道民のくらし・営業・経済を守る道独自策を — 新型コロナウイルス感染拡大対策を徹底 —



コロナ禍のもとでも 重度の障がい者の訪問教育を

共産党道議の質問を契機に、2016年から一部重度障がい者への訪問教育が開始されました。しかしコロナ禍の感染防止対策で訪問教育が中断される事態に。

菊地道議は訪問教育が中断されたまま卒業させることのないよう対策を求めました。

小玉俊宏教育長は「コロナ禍による教育機会の中断、縮小の事情のもと各自の状況に応じて指導していく」と答弁し、障がい者のみなさんから喜びの声が寄せられました。

冬期のコロナ対策 換気能付エアコンに助成実現

菊地道議は2020年第3回定例会予算委員会で、冬の感染防止対策強化として他県で実施している換気機能付きエアコンへの助成を北海道でこそ必要と求めました。

道は「店舗改装と合わせての導入は補助対象とする」と答弁。営業への後押しになる評価をひきだしました。



鈴木知事に要望する道議団ら(左端)菊地道議

抜本的な対策を求め
対道交渉は8回に!
道議団は2020年
度予算要望時から8回
にわたり鈴木直道知事
に対し新型コロナウイルス感
染防止対策を求め、道民
生活を守る活動を議会
内外でとりこんでま
した。

— 小樽経済は危機的状況 !! 小樽市内の観光産業の実態を聞く —

観光地小樽は、新型コロナウイルスの影響で人出が大幅に減少。店舗の休業、営業時間短縮などで経済に多大な影響が出ています。

菊地道議は2020年10月、畠山和也前衆議院議員・小樽市議団とともに小樽商工会議所、小樽市商店街振興組合連合会を訪問し「前年比の7～8割減が当たり前」の厳しい現状について聞き取り調査をしました。



山崎範夫専務理事(手前)と懇談する
(左から)菊地道議、畠山和也氏、高野さくら市議

生活相談をうけています

- 月曜日～金曜日
- 午前10時～午後4時

菊地葉子事務所

小樽市稲穂1-12-205 ステーションハイツ
☎64-5591 FAX64-5592



中田道五郎小樽民主商工会事務局長
(左)に話を聞く菊地道議(右)



商店主の話を聞く丸山晴美市議(左)と
菊地道議(中央)



阿久津光之小樽医師会会長と面談する菊
地道議(中央)と酒井隆裕小樽市議(左)

昨年以來、世界的な新型コロナウイルス感染拡大で、国民生活と経済活動に大きな影響が出ています。2月からワクチン接種が始まりましたが、医療機関のひっ迫状態もあり、収束の見通しもついていません。とりわけ北海道は昨年2月、鈴木直道知事は全国初の緊急事態宣言を発出、その後全国一斉の宣言が続く深刻な状況です。菊地葉子道議は、小樽市内の実態を調査し、道民のくらし・営業を守れと知事への要請を続け質問をしてきました。

全国で35人学級実現

～道議会も全会一致で意見書採択～

3人の道議団
菊地道議(中央)



少人数学級は長く国民的要望でした。

「新型コロナウイルス対策で密を避ける」としながら学校は40人学級でコロナ対策に矛盾が広がり、政府は子どもたちの教育環境改善に向け2021年度から5年間で小学校全学年での35人学級を実施すると表明しました。40年ぶりの改定です。

道議会は、昨年10月2日、日本共産党が原案を提出した「少人数学級の拡充を求める意見書」を全会一致で可決しています。共産党道議団も議会で少人数学級実施の質問を繰り返してきました。

道は2020年度から3年間で4年生までの35人学級実施を始めており、国より1年早く6年生まで実施する計画です。

道立高校トイレ洋式化大きく前進

今年度予算に道立高校の生徒用トイレ整備費が計上され、現場から和式要望があるもの以外すべてが洋式化になります。

菊地道議は2017年第4回定例会で道立高校のトイレの洋式化率37.9%の現状をとりあげ、道が整備目標を制定して取り組むべきと質していました。

**新幹線トンネル工事の有害残土対策
工事は一時中止して調査・点検を**

北海道新幹線の札幌延伸に関し、重金属を含むトンネル残土の受け入れについて、住民の不安の声が広がっています。

北斗市では、渡島トンネルから基準値の270倍のヒ素を含んだ残土が出たにもかかわらず、議会や道への報告が2年も放置されていました。

菊地道議は北斗市議

らとともに鉄道運輸機構に、情報公開と全区間トンネルの再調査を要請しました。道に対しては、関係自治体や住民への公表を求め、結果と対策が明らかになるまで工事凍結すべきと求めました。

道は「機構に対し、丁寧な対応について求める」と従来の答弁をくり返し、無責任な姿勢にとどまりました。



2020年10月鉄道機構に申し入れる菊地道議(上列左から2人目)ら

「朝里の水を守る会」と懇談



みなさんの話しを聞く菊地道議(中央)

札幌トンネルの有害物質を含む残土を石切山で受け入れる方針に対して、地域住民から反対の声が上がっています。

2020年6月18日菊地道議は、住民の会「朝里にヒ素・カドミウム等の有害トンネル掘削土を入れさせず、地域の環境と水を守る会」の皆さんの声を聞きました。

原発も、核のゴミ最終処分場もない

「核のゴミ受け入れがたい」と宣言する道条例遵守を

昨年8月、寿都町が高レベル放射性廃棄物(核のゴミ)の最終処分場に応募し、10月には神恵内村も続き、現在後志地域では2自治体が核のゴミの受け入れ地としての適性検査をすすめています。



2020年10月住民の会吉野晴彦共同代表(右)の話しを聞く菊地道議(左から2人目)ら

鈴木知事は当初「頼を札束ではたくようなやり方」と強く反対しましたが、その後は「現時点では反対」とトーンダウンしています。

菊地道議は、道議団と共に、寿都町・ニセコ町・岩内町を訪問し住民の声を聞きました。

議会で全道の自治体や漁業・観光業団体の不安と反対の声が広がっていると、知事は「核のゴミを受け入れがたい」と宣言した条例を遵守すべきと迫りました。

鈴木知事は「(条例は)現在まで20年にわたって役割を果たしてきたことは尊重すべきもの。条例は遵守しなければならない」と表明しました。

被爆回避と新型コロナ感染防止両立は困難

— 原発から撤退を —



2020年6月、予算委員会
で質問する菊地道議

国は感染症の流行中に原発事故があった場合、被爆対策を優先し、原則換気は行わないと、基本的考え方を示しています。

菊地道議は、災害による命の危険が迫る中、感染への不安から避難所に行くことをためらう問題や、ソーシャルディスタンスを確保したバスの台数確保などをとりあげ、「原発事故対応と感染防止の両立は極めて難しい。原発に依存しないエネルギー政策に切り替えてこそ、道民の安全が守られる」と訴えました。